

事業番号	09 06 03	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業農村の基盤整備事業	部局	農政部	課・室	農地整備課	
		実施期間	S25 ~	E-mail	nochi @ pref.nagano.lg.jp	

### 1 現状と課題

・県内の水田は大規模な区画が少なく、50a以上の区画への整備率は2%（全国38位）に留まっている。また、小規模農家が分散してほ場を所有している状況のため、生産効率が低い。特に傾斜地が多く、高齢化も進行している中山間地域ではこの傾向は顕著である。中山間地域では、大型の農作業機械の導入が困難なほ場も多く、過疎化・高齢化の進行により、効率的な農業生産が行えない地域がある。

・コメの需要低下に伴い、畑作への転換が求められているが、野菜や果樹などの高収益作物の作付に必要な畑地化（地表排水を促すために農地に勾配をつけたり、地下水排除を促すために暗渠排水を整備する）は進んでいない。

・農産物の安定生産に必要な用水を供給する農業水利施設の多くが耐用年数を超過する時期を迎えており、更新整備や長寿命化が急務となっている。

### 2 事業目的

・地域の担い手が効率的な農業を営むための、農地や農業用施設の条件整備を行う。

・地域の特性に応じた高収益作物の作付を実現させるための、農地や農業用施設の条件整備を行う。


・施設の機能診断に基づく長寿命化計画を踏まえ、計画的な農業水利施設の補修・更新を進めることで、安定的な用水の供給を可能とするとともに施設の損壊等による災害を未然に防止する。

### 3 事業目的を達成するための取組

**①生産効率を高める農地・農業用施設の整備**

・スマート農業技術の導入や担い手への農地の集積・集約化を可能とし、農業生産コストを削減するためのほ場の区画拡大や用排水路のパイプ化等の条件整備を実施。

・中山間地域では、コスト削減のための整備に合わせて、集落道や防災施設、活性化施設等生活環境の整備を行うことで、地域の活性化を図る。




【ほ場の区画拡大】

**②収益性を高める農地・農業用施設の整備**

・野菜や果樹など高収益作物の生産のため、水田から畑地への転換や畑地かんがい施設の更新・整備等の条件整備を実施。

・ほ場の冠水被害による畑作物の品質低下防止のための排水対策、農作物輸送に伴う荷傷み防止のための耕作道を整備。




【水路兼用農道の整備】

**③用水を安定供給するための農業水利施設の適切な更新**

・農業用水の安定供給と維持管理労力の軽減を図るため、農業水利施設の長寿命化を計画的に実施。特に、損壊により営農に与える影響が大きい重要構造物については、重点的に対策を実施。

・施設管理者の維持管理や更新に係る負担を軽減するため、農業用水を活用した小水力発電の導入を促進。

・施設管理者の管理負担を軽減し、作業の安全性を向上させるため、水門の自動化・遠隔化を促進。



【水路トンネルの補修・補強】

### 4 成果指標

(推移の凡例 ↑:改善 ↓:悪化 →:変化なし —:数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由	
			実績	実績	推移	実績				推移
①	農業生産コストを低減するためのほ場の区画拡大面積	ha	191	240	↑	267	↑	265	達成	第9次土地改良長期計画における2027年度（R9年度）までの目標に基づいて、R5年度の区画拡大面積を設定【累積値】。
②	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備（新設・更新）面積	ha	1,972	2,269	↑	3,132	↑	2,402	達成	第9次土地改良長期計画における2027年度（R9年度）までの目標に基づいて、R5年度の畑地かんがい施設の新設及び更新を行う農地面積を設定【累積値】。
③	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	箇所	37	48	↑	60	↑	45	達成	第9次土地改良長期計画における2027年度（R9年度）までの目標に基づいて、R5年度の重要な農業水利施設の整備箇所数を設定【累積値】。

### 5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	★農業農村総生産額	億円	2021 (R3)	3,539	2022 (R4)	3,719	2023 (R5)	3,992 (県推計)	2027 (R9)	3,700
1-1①	持続可能な脱炭素社会の創出	★再生可能エネルギー生産量	万TJ	2020 (R2)	2.9	2021 (R3)	3.0	2022 (R4)	3.0	2027 (R9)	3.7
1-3①	社会的なインフラの維持・発展										

### 6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R5年度	5,926,654	5,880,829	368,902	12,176,385	902,982	9,115,911	74.0
R4年度	6,786,625	6,527,698	1,511,611	14,825,934	994,508	8,881,006	77.4
R3年度	6,426,367	8,262,709	846,389	15,535,465	1,030,827	8,725,877	77.5

事業番号	09 06 03	<b>事業改善シート（令和5年度実施事業分）</b>	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	<b>農業農村の基盤整備事業</b>		部局	農政部	課・室	農地整備課

## 7 主な取組実績と成果

### ①生産効率を高める農地・農業用施設の整備

- ・経営体育成基盤促進事業等により、10a～20aの狭小な区画を30a以上の区画拡大や水路改修、道路整備を行い、累計約267haの耕作条件改善を行った。
- ・中山間総合整備事業により、中山間地域における条件不利地の農業水利施設の改修、集落道の整備を実施した。

### ②収益性を高める農地・農業用施設の整備

- ・経営体育成基盤促進事業等により、水田から畑地への転換を行い、高収益作物の導入等により収益性の向上を図った。
- ・野菜や果樹など高収益作物の生産のため、畑地かんがい施設の新設・更新等3,132haを整備した。
- ・経営体育成基盤促進事業、中山間総合整備事業により、ほ場の冠水被害による畑作物の品質低下防止のための排水対策、農作物輸送に伴う荷傷み防止のための耕作道を整備した。

### ③用水を安定供給するための農業水利施設の適切な更新

- ・重要な農業水利施設である、頭首工1か所、水路橋2か所、水路トンネル5か所、排水機場4か所整備が完了し、累計12か所全ての整備完了により農業用水の安定供給を行うことが出来た。
- ・畑地かんがい施設の新設・更新を合わせ、計11地区の整備し3,132haを達成した。
- ・農業用水を活用した小水力発電について、4,844kWの設備容量を整備した。



堰水被害対策用の排水トンネル（梓川右岸地区）

## 8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	農業生産コストを低減するためのほ場の区画拡大面積	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値265haを達成した。							
指標②	収益性を向上させる畑地かんがい施設の整備（新設・更新）面積	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値2,402haを達成した。							
指標③	農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	達成
事業計画に基づき計画的に事業を推進した結果、目標値45箇所を達成した。							

## 9 今後の事業の方向性

### (1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・農業用水の安定供給に必要な農業水利施設は今後も耐用年数を迎え、対策工事が必要な施設が多く存在する。策定されてから10年以上を経過している長寿命化計画もあるため、現状を正しく反映した長寿命化計画自体の適切な更新が必要である。
- ・農業者の減少や高齢化が進む中、傾斜地、狭小・不整形な農地などでは、担い手への農地集積が進まず、耕作放棄地の増加や農業生産活動の縮小が懸念される。
- ・補助事業による小水力発電箇所が完了していく中、新規地区数は減少傾向にある。対して民間による新規小水力発電地区数は増加傾向がみられるが、設備容量が小規模なものが多くなっている。
- ・農業者だけでは、農業水利施設や棚田等の維持管理が困難になってきている。

### (2) 事業改善の方策

- ・長寿命化計画自体の適切な更新に加え、計画的な農業水利施設の補修・更新を進めるとともに、土地改良区等による適切な保全管理体制を整え、農業生産に不可欠な農業用水を安定供給する。
- ・農地の区画拡大や平坦化、畑地かんがい施設の整備、排水改良など耕作条件の改善により、担い手への農地集積を促進する。
- ・小水力発電に当たっては、適地調査による候補地の発掘に加え、民間事業者へのP・R・用水管理者とのマッチングにより、補助事業と民間開発の両面で小水力発電の促進を図っていく。
- ・農業水利施設の役割や施設を守り活かしていくことの重要性を地域住民等に理解してもらうため、疏水等の農業資産を観光や学びに活用する取組を民間事業者との連携も模索しながら引き続き促進する。

事業番号	09 06 03	<b>細事業一覧（令和5年度実施事業分）</b>	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	<b>農業農村の基盤整備事業</b>		部局	農政部	課・室	農地整備課

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	<b>農業農村の基盤整備事業</b>		8,725,877 千円	8,881,006 千円	9,115,911 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県営かんがい排水事業	直接	農業水利施設の更新・補修、管理の省力化 実施地区 13地区		
2	県営畑地帯総合土地改良事業	直接	畑地かんがい施設の更新、畑地の区画整理 実施地区 11地区		
3	経営体育成基盤整備事業	直接	水田の区画整理、用排水路・農道の整備 実施地区 10地区		
4	県営農道整備事業	直接	農道橋の耐震化、安全施設の整備 実施地区 1地区		
5	県営中山間総合整備事業	直接	中山間地域における農業生産基盤と農村生活環境の整備 実施地区 11地区		
6	団体営土地改良事業	補助金	小水力発電施設設置への支援（1地区） 農業水利施設や農道の改修、区画整理への支援（65地区） 実施地区 66地区		
7	県単農業農村整備事業	直接	土地改良区等が行う農業水利施設等の整備への支援 実施地区 46地区		
8	農村地域整備基礎調査事業	直接	農業農村整備事業の計画策定等に必要基礎資料の収集整理（整備実績等の調査） 調査対象 77市町村		
9	中山間地域土地改良施設保全管理適正化事業	直接	中山間地域の土地改良施設を保全管理する市町村・土地改良区を対象に会議、説明会を開催 会議・説明会 20回		
10	次代を担う土地改良技術者育成事業	直接	市町村や土地改良区の新任担当者に対して、基礎的技術研修の実施を予定していたが、既存の技術研修へ市町村や土地改良区担当者も参加し対応（既存技術研修4回） 研修会 0回		
11	信州棚田ネットワーク推進事業	直接	①全国棚田カードの作成 ②企業と棚田保全団体とのマッチング ①棚田カード作成6棚田 ②棚田パートナーシップ協定締結 4企業等		
12	ふるさと信州棚田支援事業	補助金	棚田地域における土地改良施設や農地の保全整備等を行う地域住民活動への支援 支援団体 9団体		
13	地下かんがいシステム導入促進事業	直接	地下かんがいシステム「FOEAS」の中山間地域モデルほ場の設置及び実証展示会の開催 実証展示会 1回		